

## 議会活性化委員会（第1回）会議概要

平成23年3月8日（火）

午後1時30分から3時05分

### 末松裕人委員長

本日は、まとめるということを前提とせず、いろいろな意見を出し合っていたきたいと思う。

### 平林俊彦議長

先日の幹事長会議において、議会活性化委員会の会派での選出人数を所属人数に応じて多くするのかということと会派に属さない議員を加えるのかどうという2点が問題となり、この2点について協議をお願いしたい。

### 山中啓之委員

議会基本条例自体に改善の余地があるかどうかを検証することと、基本条例に則り適正に運用しているかどうかという点から活性化とは何かを考えていくべきと思う。

また、なるべく多様な意見を汲み取るためにも、会派に属さない議員の意見も取り入れていくべきだと思う。

### 宇津野史行委員

前任期の議会活性化委員会では多数決を取ったことがなく、そういう意味で会派の人数というのはあまり関係がなかった。自由な意見を出しやすくするためには会派で1人の代表者というほうがよい。会派に属さない議員は、3人なので1人を代表として入れてもよいのかと思う。

また、議会活性化委員会の構成人数は、なるべく少なくしてフットワークを軽くしたほうがよいと思う。常任委員長や幹事長は必要なときに適宜出席してもうことにしてはどうか。

### 杉山由祥委員

しばらくは、このような会派の代表者1人による構成でよいと思う。

まずは、評価ということをやるべきである。

### 山中啓之委員

宇津野委員の言うとおりに、コアはこのメンバーで、あとは柔軟に対応していけばよい。

### 末松裕人委員長

多数会派の人数割合の問題も含め課題はあるが、当面はこのような形で運用することとしたいが、会派に属さない議員についてはどうするか。前任期の議会活性化委員会で

は、会派に属さない議員は傍聴して意見がある場合、後から文書により各委員に配付する形を取っていた。

### **杉山由祥委員**

会派に属さない議員の取り扱いについても、傍聴に来られた場合に柔軟に対応していく形でよいのではないかと。

### **市川恵一議員**

この委員会は、他の委員会と違い、自分たち議会について協議する場であり、会派に属さない議員1人くらいは入れてもよいと思う。

### **山中啓之委員**

前任期の議会活性化委員会のときには、自分は会派に属さない議員として傍聴していたが、なかなか意見を述べる機会がなく、文書ということであったが、その場の議論から遅れてしまうし、返事をもらえるかどうか分からないという感じであった。会派に属さない議員も1人くらいは委員としてフランクに意見を言えるようにしたほうがよい。会派に属さない議員の意向を確認したらどうか。

### **鈴木大介委員**

会派に属さない議員については、傍聴に来られた場合にオブザーバーという形で意見を伺えばよいのではないかと。

### **宇津野史行委員**

会派に属さない議員の中から1人を選出することになると、その選出された人は、そのほかの会派に属さない議員の意向を集約した形で出席するわけであり、それ以外の会派に属さない議員は、傍聴で意見を述べたりすることはできなくなるということになる。

### **山中啓之委員**

学校跡地検討協議会では、そのような形で実施されている。会派に属さない議員のうち1人を選出することでも貴重な意見の出る可能性が広がることになる。

### **石川龍之委員**

会派に属さない議員3名のうち1人を選出するという議論については、うちの会派は10人なのでもっと多くの人数を出せないかという意見もあり、平等性を考慮する必要がある。市議会44名の代表ということで松戸市議会をもっとよくしようということが念頭にあるのならば、会派に属さない議員から1人を選出してもよいのかもしれない。ただし、恣意的な方向に導かれるようなことがあってはならないし、勉強会のようなものになっても困る。

まずやるべきなのは、前期に実施してきたことの評価、それからこれからの方向性をどうするかということである。その点をきちんとしないと時間を無駄にするだけである。

### 末松裕人委員長

取り敢えずは、このような委員構成で運用することを前提として、会派に属さない議員が積極的に傍聴に来られるようであれば、機会を捉えて発言できるように工夫してみることにはしたいと思う。それで問題があるならば改善したい。

次に、まずやるべきこととしては、今まで取り組んできたことの延長線上ということの評価を行い、評価の中から課題を抽出して課題解決のための取り組みを行う。このように今までの取り組みを前提にするということによいか。

### 宇津野史行委員

これまでにやってきた議会活性化の取り組みについては、まだまだ不十分であると考えているので、その検証は非常に大事である。検証と新しい取り組みを同時並行でやっていくのか、検証した後に新しい取り組みを行うのか、どちらがよいのか。

### 石川龍之委員

前期の健康福祉常任委員会では、子育て支援という趣旨で、所管を越えた教育委員会に対して政策提言を行った。このように、政策提言は市民のためになることであれば、所管を越えてもどんどんやっていくべきである。

### 山中啓之委員

今後のことであるが、先ほど宇津野委員から話があったが、議会基本条例のこれまでの運用についての検証は必須であると思っている。また、条例自体が時代に合わせて進化し続けるべきものであるとの観点からも検討する必要がある。

### 宇津野史行委員

前任期の議会活性化の協議においては、初めから議会基本条例の制定を目的としていたわけではなく、協議をしていく中で制定しようということになった。

今回、まずはこれまでやってきたことを検証し、課題等を抽出していき、また市民からの意見なども聞いたりしてみた上で、このままの議会基本条例では対応できないというのであれば、現状に合わせ進化させていくという視点のほうが、地に足のついた議会改革ができるのかなと思う。

### 末松裕人委員長

1期議員の中で何か意見はないか。

### 安藤淳子委員

議会は市民から見えづらと思う。より開かれたものにすべきと思う。

### 鈴木大介委員

議会は紙の量が多い。データベース化などで省くことができ、そうすれば効率化が図れると思う。

### **宇津野史行委員**

時間的にも、これまでの検証とこのような新しい課題の検討を並行してやっていくほうがよい。

### **末松裕人委員長**

これまでの検証を行うこと、その上で新しい取り組みをどのように行っていくのか、それから各常任委員会の新たな政策提言に向けての所管事務調査事項のテーマについて、これらの点を正副委員長で整理し、次回の委員会につなげたいと思う。各会派内で情報の共有及び意見集約をお願いします。

ほかに何かあるか。

### **石川龍之委員**

東京都江東区では予算ノート・決算ノートというのを作成している。松戸市の予算説明書などでは、それぞれの事業がどのようなものであるのかが見えにくいですが、これは各事業を分かりやすく説明している。これについて、活性化委員会で取り上げていただくようお願いしたい。

委員長散会宣言